

取扱いの趣旨

トリプタン製剤は、セロトニン5-HT₁受容体に作用することで、脳の血管の収縮、三叉神経からの痛み物質の伝達を抑制し、片頭痛発作を抑制する医薬品であり、効能・効果に該当しない頭痛等に対する算定は、原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【投薬】

《令和6年2月29日》

55-1 トリプタン系片頭痛治療薬の算定について

○ 取扱い

次の傷病名に対するトリプタン系片頭痛治療薬（スマトリプタンコハク酸塩（イミグラン錠等）、ゾルミトリプタン（ゾーミッグ錠等）、エレトリプタン臭化水素酸塩（レルパックス錠等）、リザトリプタン安息香酸塩（マクサルト錠等）、ナラトリプタン塩酸塩（アマージ錠等））の算定は、原則として認められない。

- (1) 緊張型頭痛・緊張性頭痛
- (2) 頭痛
- (3) 起立性低血圧症
- (4) 人格行動障害

○ 取扱いを作成した根拠等

トリプタン製剤は、セロトニン5-HT₁受容体に作用することで、脳の血管の収縮、三叉神経からの痛み物質の伝達を抑制し、片頭痛発作を抑制する医薬品であり、添付文書の効能・効果は「片頭痛」のみである（ただし、イミグランキット皮下注を除く。）。また、緊張型頭痛・緊張性頭痛、頭痛、起立性低血圧症における頭痛、人格行動障害における頭痛に対しては、アセトアミノフェンやNSAIDsといった解熱・鎮痛剤の投与が一般的である。

以上のことから、上記(1)から(4)の傷病名に対するトリプタン系片頭痛治療薬の算定は、原則として認められないと判断した。

グラフの見方

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員等	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

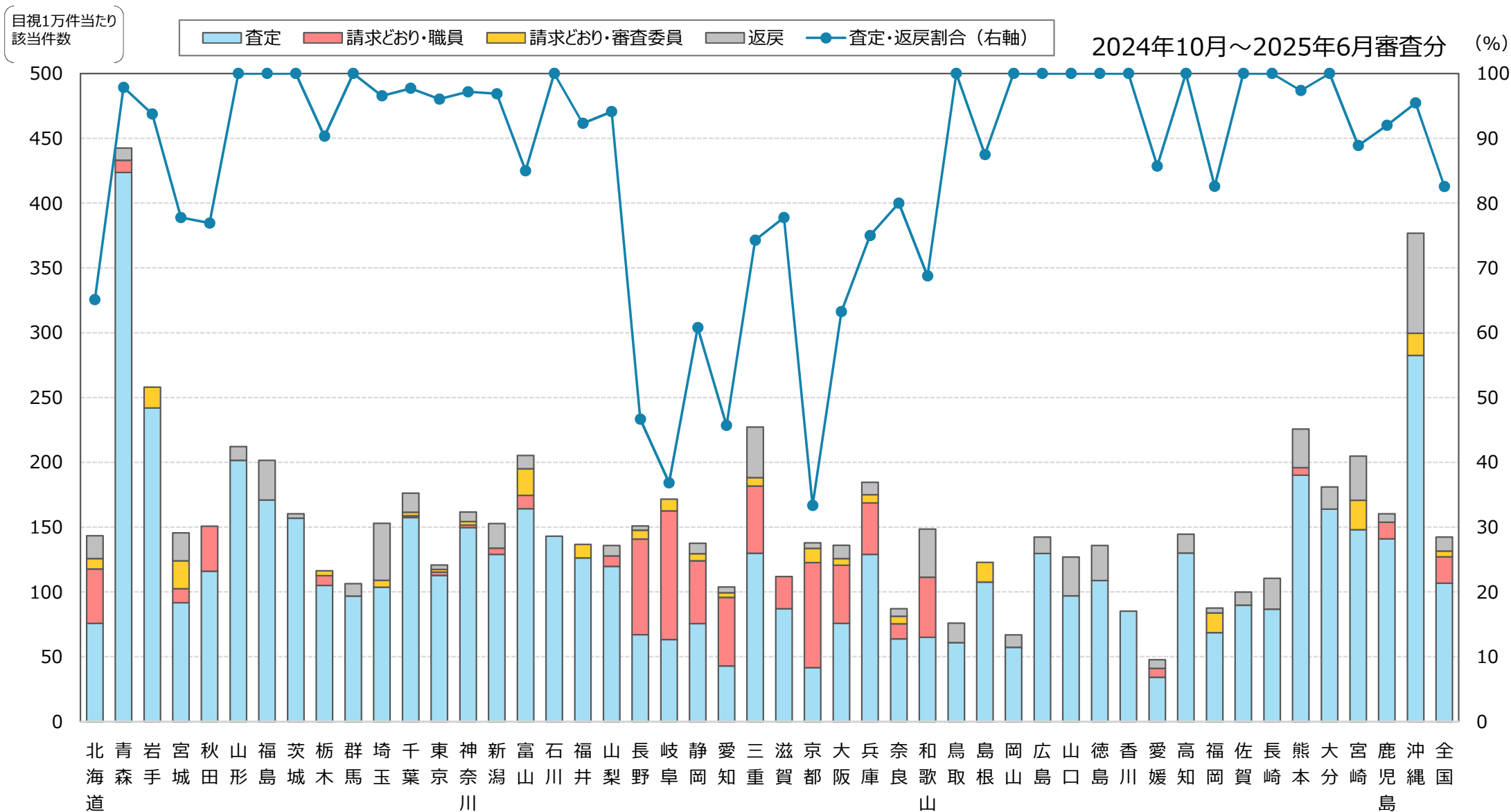
審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 82.57%
- 検証対象都道府県 18

検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	京都、岐阜、愛知、長野、静岡、大阪、北海道、和歌山、三重、兵庫、秋田、宮城、滋賀、奈良、福岡、富山	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	岐阜、京都、長野、愛知、三重、静岡、和歌山、大阪、北海道、兵庫、秋田、滋賀、奈良、宮城、富山	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	宮崎、宮城、富山、島根、福岡、京都、岐阜、北海道、長野、三重、兵庫、奈良、静岡、大阪、愛知	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

該当件数（全国）	【条件】	2,237件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	1,847件
検証を必要とする審査	請求どおり	390件



【該当件数】取扱いの趣旨に該当したレセプト件数